



Governor Message

再びCLP

クラブ会長各位
クラブ幹事各位

いよいよ年度も余すところ4ヶ月となりました。会長年度の3分の1を振り返って如何でしょうか。私も皆様と同じ運命を辿っている者としていささか感慨を禁じ得ません。前半は地区委員会の方針会議、公式訪問、地区大会、クラブ周年事業と今までに経験したことの無い程多忙でございました。奥三河RCという小柄ながら素晴らしい理念をお持ちの、やがて40周年を迎えるクラブなどは合同例会が困難なので15名の例会に単独訪問を致します。例会終了後は2時半から予定されている名古屋名東RCの周年記念例会に馳せ参じます。東名高速の集中工事期間にあたり下道を走りながら走って滑り込みます。運の悪いときには一日に4つの会議に呼ばれました。

そして後半も2月の中旬で、いま8分区のIM、第2回目の各種クラブ委員長会議、そしてIAC、RAC、RYLAの年間総決算の大会、周年事業など前半の定例の会議より忙しいものになっています。これは予想以上のことでした。しかし地区委員会などは可能な限り出席して委員会の熱意に応えようと内心誓っております。

この地区委員会のロータリーに掛ける熱意は正直どこからわきあがってくるのでしょうか。ロータリーのマジックをつくづく感じずにはいられません。2760地区のどの会合に出席させて頂いても裏切られることは一度もありません。とにかく現在この類い希なるヒーロー集団の真っ直中で働かせて頂くことが天のお恵みだと思っております。

さて今期も終盤を迎え、どうしても気掛かりなことがあります。それはCLPの取り扱いです。私は今期の始まる前から機会ある毎に“CLPがクラブを救う”事を申し述べ、“一度はクラブ協議会レベルで勉強してみたい”と会長さんに御願ひ致しております。このことは何も今期のガバナーの責務でも何でもありません。2004年11月に、次年度の始まる前まではCLPの検討をクラブでするようにと国際ロータリーからの指示がありました。毎年のように地区研修リーダーの説明、地区チーム研修等の機会にCLPが恐る恐る解説されていた事はあります。

しかし私はガバナーをお引き受けするに当たっては、今期中には、必ずCLPをお話ししてクラブで了解してもらっておかないといけないと思うようになりました。それはクラブの次期会長にお送りする“クラブ会長要覧”がすべてCLPに準拠した解説がなされているからです。ガバナー要覧もガバナー補佐研修の手引きも、地区委員会要覧も同様です。次期地区急いでガバナー補佐研修会議もCLPに関する検討時間も数次に亘り設けました。そのようなわけでクラブでCLPの意義と内容を理解していないとクラブは現在のロータリーのニュースさえも理解できなくなる現状に向かっています。そこで次年度の片山主水ガバナーエレクトと協議致しまして共通の認識のもとに“CLPについての地区見解”を年度の始まる前に各クラブにお示したところです。

このCLP案はさすがにRIが永年かかって、潰れたクラブ、機能を失ったクラブを検証したあげくクラブ活性化の妙案としてクラブに示された5項目であるのでどのクラブにも等しく参考になると信じています。これらをクラブの現状と比較検討するときには必ずながしかのクラブ運営管理のよりよいヒントを見いだすことになることを確信しています。その詳細はガバナー月信10月号、11月号に掲載してあります。公式訪問でもクラブに御願ひ致しまし

ガバナーメッセージ

この誤解まみれの名案

国際ロータリー2760地区ガバナー 江崎柳節

た。訪問を終え些か驚いたのですが、70%に近いクラブで検討が始まっていました。会長、幹事さんはこれをお目通し頂きたいと思えます。ご自分の責務についての指南書である“クラブ会長要覧”をどのようにお読みになっているのでしょうか。

現在世界のクラブでCLPを実施率は75%に上ります。世界のクラブの7%、世界の会員の8%を占める日本ロータリーが相変わらずマンネリの前年通りの運営で凋落傾向にある現状をみると、変化に臆病であってならないと考えています。CLPの検討にはクラブ細則の変更などはあまり考えなくてもよいことです。それよりもクラブ管理運営は今がベストですか。奉仕プロジェクトは地域のニーズに合っていますか。クラブの研修を受け持つ委員会は機能していますか。増強はクラブ全体で検討していますか。クラブのプロジェクトが地域に理解されていますか。地域から期待とあこがれを持たれていますか。会員が共通したクラブの未来像を思い描いていますか。

ここでも“国際的スタンスで自己を評価出来ない”ロータリージャパンなのでしょうか。

高まりつつあるわが地区のCLPについての検討をなさる時には次の5点だけは会長さんからクラブへ説明していただくと少しづつCLPの真価が見えてくるかと思えます。(この5項目に関しては前記のガバナー月信10月号、11月号をご参照下さい。)

- 1) CLPに関するガイドラインが難解である。はじめに委員会整理ありきの如き誤解。
- 2) ロータリーの魂である“職業奉仕”を奉仕プロジェクトの中で詳述していない誤解。
- 3) 広報とはロータリーの公共イメージの高揚と世間への認知のことであることへの理解。
- 4) 奉仕プロジェクトが地域のニーズ、外国の地域のニーズにかなっているかの検証。
- 4) クラブ奉仕はクラブ内での自己研鑽とロータリー研修であることの再確認。
- 5) ロータリー財団の貢献がロータリアンに殆ど説明されていないこと、集金の運用が不透明であるという誤解。財団の誇るべきプログラムへの無関心。

確かに私は自分でも今年度はCLPにこだわっていると思っています。入れ込みすぎたとも思っています。しかしガバナーは泥まみれになっても正しいことは皆様に御願ひするのが責務です。実は私は、現状でよいと思っているクラブと悠久のマンネリに気付いたクラブとの2極化がはじまり、2、3代先のクラブ会長さんにそれが重荷としてかかってくるように思っています。それが杞憂であるとしても今一度上記のごとき“クラブの制度疲労”についてはご検討して頂くことが些かも無駄でないことを断言しておきたいと思えます。

三分の一の会期を残した現在、CLPに限らず、クラブの期首の理事会で決定している目標設定が確実に進捗しているか、いつが達成時期か、そして残りの作業を会員にどう協力を得るか。少し早いようでもそんな仕上げをする時期を迎えていると思えます。出来得たことが最善の結果ですが、達成感の大きな忘れがたい一年として頂きすことをに切にお祈りしております。

